

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 5	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Moderate doses of ethanol partially reverse avoidance learning deficits in high-alcohol-drinking rats. 適度なアルコールの投与はアルコール高嗜好性ラットで部分的に忌避学習欠損を改善する	
執筆者	
Rorick LM, Finn PR, Steinmetz JE	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pharmacol Biochem Behav. 2003, 75(1):89-102.	
キーワード	
エタノール、忌避学習、HAD ラット、LAD ラット	
要 旨	
<p>我々はこれまでにエタノールにナイーブな高嗜好性ラット(HAD ラット)がエタノール低嗜好性ラット(LAD ラット)に比べ、シグナルバー押し能動忌避学習で選択的欠損を示すことを報告した。本研究では食物や忌避学習課題を用いてHAD やLAD ラットでエタノールの投与がアプローチと忌避の学習に影響するかについて検討した。ラットは0、0.5、1.0、1.5 g/kgのエタノールを投与して食物、忌避学習課題を行った。その結果、両系統のラットともアルコールの投与により食事によって条件付けされた応答の獲得が投与量依存的に影響を受け、1.5g/kgの濃度がかつとも大きな影響をうけた。適量のエタノールの投与(0.5、1.0 g/kg)は、HAD ラットで忌避学習の欠損が改善されたが、この現象は食事条件付け学習が忌避学習より先に行われたときのみ観察された。かつとも高い1.5g/kgの濃度のエタノール投与はHAD ラットにおいても忌避応答を消失させた。LAD ラットにおける忌避応答はエタノールのいずれの投与量においても変化は観察されなかった。</p> <p>以上の結果は以前の結果と一致してアルコールの嗜好性は恐怖や不安の増加に関連しており、さらにHAD ラットではエタノールの投与が恐怖、不安の減少を作り出した状況下においては複合的な要素が関連していることを示している。</p>	